

7/17 農業就職・転職LIVE

セミナースケジュール

11:00~11:30

農業初心者講座 ~本日のフェアを有効に活用するために~

農業法人に就職希望の方向けに、そのポイントと留意点をお伝えします。また、農業を仕事にするための就農方法や農業法人に就職後農業経営者になるにはどんなことが必要なのか、そのポイントと留意点をわかりやすく解説します。農業を仕事にと考えている人がすぐに次の一歩を踏み出すためのセミナーです。



Akusyu 農業キャリアコンサルタント 深瀬 貴範 氏

【PROFILE】

1985年株式会社リクルートフロムエー(現リクルートジョブズ)入社。営業・人事(新卒採用・労務管理)・人材斡旋部門でIT業界のキャリアアドバイザーを経て2013年より農林水産省と農業人材の確保について取り組み、株式会社リクルートを定年退職後、フリーランスで農業系の仕事に取り組み。国家資格キャリアコンサルタント、米国CCE,Inc認定 GCDP-JAPAN キャリアカウンセラー

12:00~12:30

パルシステム千葉直営農場 椎名農場長が語る

~農業法人で得られる「知識」「技術」「ネットワーク」~

農業を始めるうえでとても重要な「知識」「技術」の習得。農業法人に就職するとどんな知識やどんな技術がどのくらいの期間で身につくか、また、地域の方とのネットワークや農業仲間とのつながりなど、実際に農業生産にかかわる「パルグリーンファーム パルシステム千葉 直営農場」の椎名農場長がわかりやすくお教えします。



農業生産法人パルグリーンファーム(株)(パルシステム千葉 直営農場) 取締役農場長 椎名 一樹 氏

【PROFILE】

1984年6月26日生まれ(37歳)千葉県出身 2008年3月:東京農業大学地域環境科学部卒業
2008年4月:生活協同組合パルシステム千葉に入協、4年間、配送、営業業務現場経験を積む。
2012年10月:内部公募により農業生産法人パルグリーンファーム株式会社へ出向。
2021年6月:現在は農業生産法人パルグリーンファーム株式会社 パルシステム千葉直営農場にて農場長として活躍。

13:00~13:30

ベテラン有機農業農家が語る 研修生から始める農業

農業技術の習得は色々ありますが、どれも簡単ではありません。農業法人に就職する、農業の学校に通う以外に研修生として農業技術を身につける方法があります。千葉県で有機農業を営む山木さんが研修生としての農業の始め方・研修をすることで身につくもの・研修をする上での心構えなどをわかりやすくお話しします。農業技術を身につけたい方には必見のセミナーです。



三つ豆ファーム 代表 山木 幸介 氏

【PROFILE】

26歳のときに千葉県山武市に農業研修生として移住。一年間で6件の農家に研修ののち、師匠に土地、機械から作業場まで借りて営農をスタート。17年目のシーズンをむかえる。年間80種類ほどの野菜を作り、野菜セットとして個人宅へ販売。

14:00~14:30

研修から始める農業 ~元国家公務員が目指した心が豊かになる働き方~

50歳を目前にして豊かな自然に囲まれた田舎で自然と共生する暮らしにこれが有機農業を目指した伊地知さん。農業で独立するまで研修生として農業技術の習得をする方法をご紹介します。早期退職制度を使い国家公務員を退職。農業の学校に通い農業技術を習得後、研修生として専業有機農家の下で研修を開始した伊地知さんが研修生として学ぶ上で必要な事、知れること、身に付く事や、1年8か月の研修を経て来月独立就農をする伊地知さんが研修で得られることから、研修先を選ぶ上で気を付ける事をわかりやすくお話しします。



The Organic Farm uramichi 園主 伊地知 淳 氏

【PROFILE】

1971年生まれ。現在ギリギリ49歳。神奈川県伊勢原市出身。大学(経済学部)卒業後国家公務員となり霞が関で25年勤務。それまで農業経験はゼロ。有機農業を目指し、公務員在籍中に週末農業学校に入校。そこで講師の千葉康伸氏と出会い、有機農業の道に進むことを決意。48歳で公務員を辞職し、千葉氏が運営するオーガニック農場(NO-RA・農業)で1年8か月の研修を経て、本年7月から大磯町にて新規就農を実現。今後は、大磯町に移住し、妻が鎌倉にて経営するギャラリ-uramichi(うらみち)とコラボしつつ、有機野菜をはじめとして、丁寧に手作りで仕上げたクオリティーの高い心がワクワクする商品を提供して行くことが目標。

15:00~15:30

会計システムのSEから農業法人に転職 ~目指すは農業法人のキャリアプランの構築~

明治大学農学部卒業後、子供の頃から農業に興味を持っていた佐藤さんが農業法人に転職するまでのプロセス及び転職先を選ぶ際のお話しします。大学の研究を通して地方の農業従事者と話をし、佐藤さんが感じた感想は「農業は儲かりづらい」。そこで、きちんと経営を理解する為、新卒で管理会計を学べる会計士のSEとして2年間つとめる傍ら、農業に関心のある若者のネットワーク「GOBO」で活動。自分の目指す「人々の生活を支える仕事」がしたかった」と言う佐藤さんの考えと「日本の農地を守る」と言う中森農産(株)の経営理念・ビジョンが一致し農業法人に転職したプロセスを農業法人で働く佐藤さんの視点でお話しします。



中森農産(株) 営農部部長 兼 GAP推進室室長 佐藤 康平 氏

【PROFILE】

明治大学農学部卒業後、就職活動で農業法人を一度検討するも、業界的に儲かりづらい様に思われ、まずは会計を勉強する目的で会計ソフトの会社に就職。SEとして在職中、農業に関心のある若者のネットワーク「GOBO」に入り、活動を通して農業の最新情報を知りたいという思いを強める。GOBOでの活動の中で中森農産(株)に出会い、自分の目指す「人々の生活を支える農業」と、「日本の大地を守っていく」と言う中森農産(株)の経営理念に一致し入社。現在は「お米・麦・大豆の生産、特にドローン・トラクター・コンバインなどの大型機械のオペレーターや、人員調整や作業計画の立案も担当。また、GAP推進室室長としてJGAP取得や改善活動の推進の他、社外と協業によるIoTデバイスの開発など農場の運営の最適化なども手掛ける。